

平成 29 年 5 月 12 日

熊本県知事 蒲島郁夫 様
熊本市長 大西一史 様
菊陽町長 後藤三雄 様
大津町長 家入 勲 様
南阿蘇村長 吉良清一 様
熊本市議会議員 澤田昌作 様
菊陽町議会議員 渡辺裕之 様
大津町議会議員 桐原則雄 様
南阿蘇村議会議員 荒牧俊一 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
代表連絡先 熊本市西区島崎 4 丁目 5-13 中島康 電話 090-2505-3880

白川改修・立野ダム建設促進期成会に関する要請書

白川流域 4 市町村（熊本市、菊陽町、大津町、南阿蘇村）でつくる白川改修・立野ダム建設促進期成会が 5 月 16 日に開催されるとのことです。

昨年の熊本地震とその後の大雨で、立野ダム建設予定地の両岸は大きく崩壊し、ダム湖予定地周辺の大半が崩れました。立野ダムが完成していたならば、ダムの穴（幅 5m×高さ 5m）はたちまち流木や土砂でふさがり、非常に危険な状態になっていたのは明らかです。

昨年夏に国土交通省が設置した技術委員会は、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。しかし、技術的にダム本体は造れたとしても、はたして計画通り立野ダムは機能するのでしょうか。同省によると、立野ダム水没予定地には熊本地震による土砂崩壊で 50 万 m³の土砂がたまっており、計画通りダムが機能するには 30 万 m³の土砂を掘削する必要があるそうです。10 トンダンプで 5 万台分もの土砂を運び出し、処分する必要があるのに、トラックや重機が下りていく道路がつかれません。

下りることができないので、大半が土砂崩壊したダム水没予定地の崩壊斜面をコンクリートで固める等の土砂崩壊対策工事もできません。ダムの水位が上がれば、立野溶岩の表面に堆積した火山性堆積物が崩れ、湛水（たんすい）地すべりが発生するのは明らかです。大雨などでダムに水がたまった状態で斜面の崩落があった場合、ダム湖に津波が発生し、ダムの水があふれて大惨事になる危険性もあります。このような場所に高さ 90m もの巨大なダムをつくれれば、次の世代に大きな災害源を残すことになります。

今後も立野ダム建設を続けた場合、917 億円の立野ダム事業費が、地震によるダム建設現場の復旧や地すべり対策、資材費の高騰などで大幅に増えることは明らかです。今年度の立野ダム事業費は 48 億円。南阿蘇鉄道復旧には 70 億円が必要と報道されています。限られた国家予算は、立野ダム建設よりも熊本地震の復興に投入すべきです。

国土交通省が情報開示した資料によると、2012 年の九州北部豪雨の後、河川改修で熊本市内の白川は川幅が広がり、高さ 2m の堤防も完成したことで、改修前と比べ各地点で毎秒 1000~2000 トン程度余計に洪水を流すことができるようになりました。これまで水害被害を受けていたのは、河川改修が完成していなかった地区だけです。一方で、立野ダムの洪水調節能力は、ダムが計画通りに機能しても、わずか毎秒 200 トンです。大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地を見ると、ダムは造れても機能しないことは明らかです。立野ダム建設よりも河川改修を進めるべきです。

国土交通省は、住民が要望している立野ダムの説明会を開催せず、住民が提出してきた 4 通の公開質問状にも回答しようとしません。また、貴期成会が密室でダム促進を決めてしまうことは、許せないことです。そこで、下記 3 点について要請します。

記

1. 5 月 16 日の白川改修・立野ダム建設促進期成会総会の傍聴を認めること。
2. 白川流域の市町村ごと、熊本市にあっては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催することを、国土交通省に要請すること。その際、住民の質問については真摯に回答し、住民の意見を十分に聞くこと。
3. 上記説明会が開催され、国が立野ダム事業についての説明責任を果たすまでは、立野ダム建設事業を一時中断し、白川の河川改修や熊本地震の復興を促進するよう、国土交通省に要請すること。 以上

【参考資料】



熊本地震後の立野ダム水没予定地。大半が土砂崩壊をしている。(パスコ航空写真に加筆)
ダムの水位が上がれば、立野溶岩の表面に堆積した火山性堆積物が崩れ、
湛水(たんすい)地すべりが発生するのは明らかです。



地震前後の立野ダム水没予定地。黒川上流側から白川黒川合流点を望む。
奥に見えるのが長陽大橋。
これでは道路をつくることができないので、重機やダンプを下すことができません。
土砂の搬出も不可能だし、土砂崩壊対策工事也不可能です。